

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： シルバーヘルス認知症対応型共同生活介護事業所「昴」（Aユニット）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900124		
法人名	医療法人 白光		
事業所名	シルバーヘルス認知症対応型共同生活介護事業所「昴」（Aユニット）		
所在地	〒021-0852 岩手県一関市字沢298-2		
自己評価作成日	令和2年10月23日	評価結果市町村受理日	令和3年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

郊外にある施設ではあるが、緑が豊かで四季の感覚を肌で感じられる。2ユニットであるも玄関で繋がっている為、利用者や職員同士でのコミュニケーションや連携が取りやすい。個々の生活リズムを大切に、利用者本人の意向に沿った援助を心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一関市の南部の高台を造成した自然豊かで四季の変化を感じられる地にある開設10年を経た事業所である。同一敷地内に同法人の介護老人保健施設、小規模多機能ホームとは、合同で避難訓練を行っているほか、日頃から看護師や栄養士に相談し助言を得るなど、連携は密である。「心の“和”」「地域の“輪”」「皆で“笑”」を理念とし、モットーとして「明るく 楽しく 生き生きと」を掲げ、個々の生活リズムを尊重し、利用者は笑顔でゆったりと過ごしている。毎月発行の「昴新聞」で施設での様子を写真を添えて家族に届け、家族からの意見や要望を受け止め、サービスの向上に繋がっている。新型コロナ感染予防のため、交流・外出・面会が制限されているなかでも、ドライブで車窓から紅葉を楽しむなど、豊かな生活が送れるように努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : シルバーヘルス認知症対応型共同生活介護事業所「昴」(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“わ”というキーワードに3つの柱を立てて、個々が理解し共有し業務に生かせるように取り組んでいる。玄関の正面に掲示し、外部の方々にも分かるようにしている。	「利用者との“和”」「地域の皆様との“輪”」「皆でわらい“笑”」を開設時以来の理念とし、職員は日々の業務の中で確認し合いながら実践に取り組んでいる。利用者はゆったりと過ごす中で笑顔を表しており、結果の確認ができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所で行う行事にボランティアを招いて歌や踊りを披露していただいていたが、今年度はコロナの影響で行えていない。	今年はコロナ禍のため、地域との交流が困難になっている。例年は地域の保育園児を招いたり、敬老会などにボランティアが来所し歌や踊りを共にする交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々への取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、事業所の状況などを報告している。今年に入ってからからはコロナの影響で開催できておらず、資料の送付のみとなっている。	コロナ禍で一堂に会する会議を控え、委員に書面で事業所の運営状況を報告している。以前に、利用者の転倒に関して注意する点について意見が出されたことから、書面の中でヒヤリ・ハット事例も報告している。	運営推進会議には、委員から様々な意見をいただきながら、地域との連携や介護サービスが向上することを期待されています。現状、書面開催とせざるを得ない環境にありますが、事業所の課題等も委員に提示して、意見をいただくような工夫をしてみることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には参加していただいているが、それ以外は電話やメールでのやり取りが多い。	市の担当者には、運営推進会議の中で事業所の実情を伝え、必要に応じ電話で介護保険制度に関することや利用者に関わる相談を行いながら、コミュニケーションを図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践として、職員会議の場などで話し合いをしている。夜間以外は玄関の施錠は行っていない。	指針を定め、管理者と各棟代表による身体拘束防止委員会を定期的開催している。研修は法人全体で看護師を講師とした研修会を行っているほか、職員は、パソコン上の動画での研修も行っている。無意識に使う言葉による行動抑制は、その都度、職員同士で声をかけあって注意喚起している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : シルバーヘルス認知症対応型共同生活介護事業所「昴」(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は設けていないが、虐待が見過ごされる事がないよう職員間で確認をし、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けていない為、研修などに参加し支援に活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	適切な説明を行い、利用者や家族に納得していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望があった際は、職員間や法人、関係者などと話し合いを行っている。	毎月発行している「昴新聞」でホームの様子を家族に届け、通院同行で来所した際に意見等を伺っている。家族から「歩行機会の確保」や「怪我や事故の防止」についての声があり、改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで意見や提案を聞く機会を設けている。必要に応じて法人にも相談している。	日常の勤務中や定例の職員会議で、職員の意見や提案を受け、勤務時間の調整や備品の更新・導入(テレビ、ホットボックス)を行っている。必要に応じ法人代表者にも伝え、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意識や意欲が向上するよう、条件などの整備に努めていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会が多く取れていないが、今後はコロナの状況を見極めながら外部研修への積極的な参加が必要である。		

事業所名 : シルバーヘルス認知症対応型共同生活介護事業所「昴」(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会や実践報告会へ参加出来ておらず、交流する機会を作れていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の調査で本人の思いに寄り添い、安心で安全な生活が送れるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の調査で家族の思いや要望を伺い、安心できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に得た情報を基に、職員間や関係者と話し合い、適切なサービスが利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、本人が出来る範囲で職員と共に洗濯物たたみや掃除などを行い、良好な関係が築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が情報を共有し、共に支えていく関係を築けるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の体調やコロナの影響により、馴染みの人や場所との関係継続は難しくなってきたが、家族の協力を得ながら関係が途切れないような支援に努めていきたい。	入居時に把握した生活歴や家族からの聞き取りで、馴染みの人や場所を把握している。例年であれば、家族が孫を連れて会いに来たりしていたが、コロナ禍のため、現在は困難な状態にある。訪問美容師とは新たな馴染みになったりもしている。	

事業所名 : シルバーヘルス認知症対応型共同生活介護事業所「昴」(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活リズムに合わせ、お互いが孤立せず、支えあいながら生活できるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて相談にのるよう家族に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通し、信頼関係を築きながら本人の意向や希望の把握に努めている。その内容を職員間で共有、検討している。	言葉で思いを伝えることができる方は、利用者の2割程度となっており、表出が乏しい方には、職員が寄り添い写真や絵なども用いて働きかけ、意向や希望の把握に努めている。汲み取った情報はパソコンで申し送りノートに入力し、職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の調査、家族や関係者からの情報を確認し、本人との会話の中からも、経過などを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、会話や表情などから心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者からの情報を職員会議などで話し合い、その内容を基に介護計画を作成している。	ケアマネージャーがモニタリングを行い、職員会議で利用者の状況や家族の意向について話し合い、各ユニットのケアマネージャーが中心となって短期3か月、長期6か月毎に介護計画を見直している。見直しに当たっては、家族に説明するとともに、家族の意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の記録を行っている。心身の状態を把握し、職員会議などで話し合った内容を基に、必要に応じて介護計画の見直しに活かしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : シルバーヘルス認知症対応型共同生活介護事業所「昴」(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	其時の状況に応じて、本人や家族のニーズに対応している。隣接する施設看護師と連携を取るなどの柔軟な対応も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通院や買い物などの外出支援を行い、本人が安全で豊かな暮らしを提供できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医へ受診している。必要に応じて電話での相談も行っている。	かかりつけ医の受診は、これまでは家族が同行していたが、コロナ禍のため、現在はかかりつけ医との連絡や受診同行は職員が行っている。日常の健康管理は、隣接する老人保健施設の看護師が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する施設看護師に相談し、指示や助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後も本人の様子を伺ったり、家族や入院先の相談員と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	具体的な取り組みは行っていない。重度化や終末期の対応については、事前に家族に説明をしている。	重度化や終末期を迎えた場合の対応については、入居時に本人と家族に説明し、同意を得ている。重度化し医療行為が必要になったり、事業所での食事や入浴が難しくなった場合には、隣接する法人の介護老人保健施設や医療機関と協議して対応している。	

事業所名 : シルバーヘルス認知症対応型共同生活介護事業所「昴」(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行えていないが、状況に応じて隣接する施設看護師に相談し、急変時の対応や助言をいただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の事業所と共に避難訓練を行っている。避難経路図は施設内に掲示している。	年2回、同一敷地内にある施設(老健と小規模多機能ホーム)と合同で避難訓練を実施している。ハザードマップでは危険地域とされていない。非常災害用とし3日分の食糧や水を備蓄し、ストーブ・コンロを確保している。	近年過去に例のない災害が頻発しており、利用者の高齢化が進んでいることも念頭に、事業所単独の避難訓練を実施して課題把握に努めるとともに、特に夜間の避難について、同一敷地内の他事業所との協力体制を一層強化することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーに配慮した声掛けや対応をしている。	親しさの中にも礼節を持ち、不快感を抱くような言葉遣いをしないよう心掛けている。何気なく不快を与える言葉を発した場合には、同僚や管理者が自覚を促している。トイレや入浴時には羞恥心に配慮し、居室入室の際は、声がけをしてから中に入るなど、利用者のプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、表情や言動から思いを察し、自己決定しやすい雰囲気作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にし、できるだけ本人のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室を利用したり、衣類は自己決定していただくなどの支援をしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : シルバーヘルス認知症対応型共同生活介護事業所「昴」(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きなど、役割をもち自発的に手伝っていただいている。個々に合わせた食形態や旬の食材、好みのものを提供するなどの対応もしている。	献立を予め決めないで、ユニットごとに利用者の希望を取り入れながら、2日毎に食材を購入している。利用者の状況に応じて、「刻み・ミキサー・とろみ」の加工を行い、食べやすくしている。誕生会や敬老会等の行事食は、刺身・寿司などの希望に添った食事とし、行事と一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量、献立をその都度記録し個々の様子を把握している。不定期ではあるが、隣接する施設の栄養士に栄養評価をしていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや歯磨き、義歯の洗浄など、個々に合わせた対応をしている。歯科受診した際は、注意点などの助言もいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に、排泄パターンや間隔を把握している。声掛けや誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	自立している方は約2割で、多くはリハビリパンツにパットを併用し、職員が排泄パターンに応じ、声掛けや誘導を行っている。夜間は布団に付けた鈴の音で職員が駆けつけ、トイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握や乳製品、食物繊維の多い食材を提供している。便秘気味利用者は、主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望する日時での入浴は行えていないが、浴室の温度や好みの湯温に設定するなど、個々に沿った支援を行っている。	お風呂は毎日準備し、午前・午後に入浴している。利用者は週2~3回入浴している。入浴中、職員と1対1で気軽に話したり、鼻歌を歌う利用者もあり、ゆったりと入浴を楽しんでいる。利用者の希望により湯温(ぬるめ・あつめ)を調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールや居室の温度、湿度に気をつけている。本人のペースや希望に沿った支援をしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : シルバーヘルス認知症対応型共同生活介護事業所「昴」(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に渡される薬表にて、効果や副作用の確認をしている。状況に応じて、医師へも相談などを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品や気分転換など、個々ができる範囲内で行っていただき、安心して生活できるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて少人数でのドライブに行くことはあるも、コロナの影響で外出支援は満足に行えていない状況である。	現在はコロナ禍で外出が制約されているが、ドライブに出かけ車窓から紅葉を楽しんでいる。事業所前に置かれたプランターで育てている花の世話や、敷地内の菜園で野菜を栽培し、収穫を楽しまれる方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所内の金庫にて預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話ができるように対応している。手紙に関しては、要望がないため行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じたり、家庭的な雰囲気のあるものを取り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂兼リビングは天窓から自然光が注ぎ、エアコン、加湿器で温度、湿度が快適に保たれている。テーブル、ソファが配置され、思い思いの場所でテレビ視聴や塗り絵をして過ごしている。壁面に季節に応じたちぎり絵が飾られ、居心地よく過ごせる工夫がなされている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : シルバーヘルス認知症対応型共同生活介護事業所「昴」(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置に気を配り、思い思い過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた物など、馴染みある物を取り入れ、安心して居心地よく過ごせるようにしている。	ベッド、クローゼット、ナースコール、テレビ端子が設置されている。利用者は各自で衣装ケースやテレビ、位牌、写真などを持ち込み、落ち着いて和やかに過ごせる居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、手すりを設置している。各居室に写真や飾りをつける事で、安心し自立した生活が送れるよう支援している。		